

高齢社会におけるサービスの変化

ー観光サービス、葬祭サービス、地元新聞について

大 橋 美 幸

I. はじめに

超高齢社会において、配食やサービス付き高齢者向け住宅など新たに高齢者の生活支援を行うサービスが登場し、表示が分かりやすい家電など通常の商品に加えて高齢者に配慮した商品が出されるようになっていく。

しかし、ここでは、このような従来のサービスに加えて隙間を埋める新たなサービスが登場したり、通常の商品に加えて高齢者向けに配慮された商品が提供されるようなかたちではなく、顧客層の大きな変化により従来のサービスが質的に変容しはじめていく例を紹介する。

一つ目は観光である。「見る」観光から「する」観光に変わり、地元の資源を生かした着地型観光に注目が集まる中で、その一つのかたちとして健康や健康づくりという付加価値をつけた観光プログラム、ヘルスツーリズムが登場している。健康や健康づくりを目指した旅行は、古くから湯治などの歴史があるが、新しい観光（ニューツーリズム：他にエコ・ツーリズム、産業観光などがある）の一つとして「ヘルスツーリズム」という概念がまとめられ、介護が必要な人の旅行、人間ドックなどで遠方の医療機関を受診するための旅行（メディカルツーリズム）などと合わせて体系的に整理されてきている。このような変化は疾病構造の変化に伴う健康志向の高まりによるものであるが、成長が著しい近隣アジア諸国の高所得者層も巻き込んで一つの流れを作り出している。

観光都市である函館で、観光客及び市民にヘルスツーリズムに関する意識調査を行った。調査結果から現状と今後の可能性をまとめる。

二つ目は葬祭サービスである。高齢社会は多死社会でもある。しかし、葬儀を支える家族は、核家族化からさらに老夫婦のみ世帯、独居へと小さくなり、葬祭業者が家族機能を補うことが求められるようになってきている。最近、登場しているのがエンディングノートである。エンディングノートは万一に備えて自分の希望を事前にかいておくノートであり、緊急時の連絡先、延命措置の希望、自分の葬儀や墓の希望、遺産などを書き留めておくものである。将来の死を受け止め、その準備をしながら自分の「高齢者」としての生き方を考えるところから「終活」とも言われる。このエンディングノートを提供している多くが葬祭業者であり、説明会を開いたり、葬儀の事前予約、生前葬などの相談にのったりしている。この葬祭業者のサービスは将来的にさらに広がっていく可能性を有している。

エンディングノート及び葬祭関連サービスについて、高齢者に意識調査を行った。調査結果から現状と今後の可能性をまとめる。

三つ目は地方新聞である。高齢社会において、退職後の高齢者が新聞に求める情報がこれまでの仕事に関連するニュースではなく、暮らしや友人関係の情報などに移っていることが推測される。加えて、定期購読する新聞を出勤前に毎日読むかたちから、退職による生活習慣の変化により購読のかたちも変わる可能性が考えられる。そこで全国紙とは異なり、身近な地域の情報源の一つである地方新聞が果たす役割を考察する。

函館市の地方新聞である地元新聞について、高齢者に意識調査を行った。調査結果から現状と今後の可能性をまとめる。

Ⅱ. ヘルスツーリズム

1. 調査方法

2014年7月～9月、函館市の観光地及びJR駅前で、函館市民及び観光客に街頭アンケートを行った。加えて、8月、函館市の高齢者大学において受講者に集合アンケートを行った。アンケートは研修会前に配布し、終了後に出口で回収した。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、居住地など）、健康度や健康づくり志向、観光旅行の経験、ヘルスツーリズムへの関心などである。ヘルスツーリズムへの関心は、健康及び健康づくりに配慮した観光プラン6種類、加えて、介護や配慮が必要になった時の観光プラン4種類を例示し、利用意向を尋ねた。

加えて、海外観光客のヘルスツーリズムの受け入れについて、病院の保険外利用などに関連させて選択肢をもうけた。

2. 調査結果

回収数は、街頭アンケート及び高齢者大学の集合アンケートで合計235である。

（1）回答者基本属性

男性74人（33.2%）、女性149人（66.8%）【図2.1】。女性が2／3であった。19歳以下27人（11.6%）、20代60人（25.8%）、30～50代47人（20.0%）、60代38人（16.3%）、70歳以上61人（26.2%）【図2.2】。30～50代が比較的少ない。年代別に性別を見ると30～50代で男性が半数を超えているが、他の年代ではあまり変わらない【図表2.3】。

居住地は函館市内169人（72.5%）、函館以外64人（27.5%）。函館市内が7割である。居住地別に年代を見ると、函館市内は60代、70歳以上で半数を超えており、函館以外は20代が半数を占める【図表2.4】。このため、居住地別の比較は年代によって差が見られない場合に限って行う。

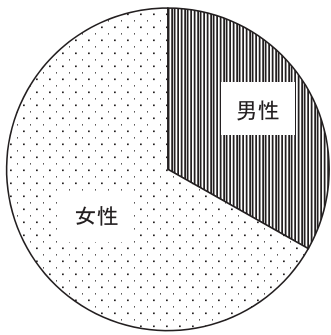


図2.1 性別

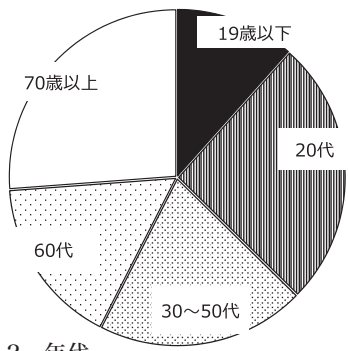
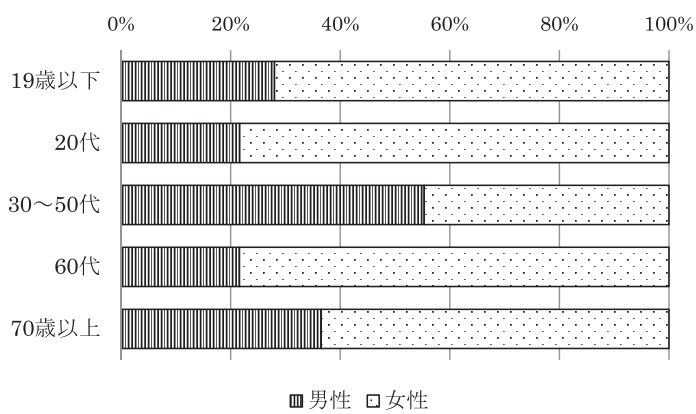


図2.2 年代

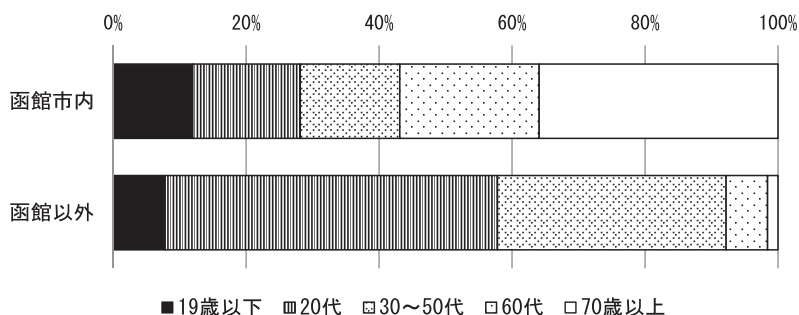
図表2.3 年代別の性別

	男性	女性
19 歳以下	8	18
20 代	12	48
30~50 代	26	20
60 代	8	29
70 歳以上	19	33
合計	73	148



図表2.4 居住地別の年代

	19歳以下	20代	30～50代	60代	70歳以上	合計
函館市内	21	27	24	35	60	167
函館以外	5	32	22	4	1	64



(2) 健康度や健康習慣

健康度は「とても健康」70人(30.2%)、「まあ健康」139人(59.9%)、「あまり健康でない」19人(8.2%)、「健康でない」4人(1.7%)。「まあ健康」が6割である【図2.5】。当然のことながら、年代別に見ると、60代と70歳以上で「とても健康」が減り「まあ健康」が多くなる【図表2.6】。

健康的な食生活は「健康的な食生活を心がけている」102人(44.2%)、「きちんと食べている」87人(37.7%)、「あまり気を付けていない」38人(16.5%)、「気を付けていない」4人(1.7%)【図2.7】。年代別であまり差は見られないが、女性の方が心がけていない人が多い【図表2.8】。

運動習慣は「日頃、運動している」88人(38.1%)、「たまに運動する」91人(39.4%)、「あまり運動しない」40人(17.3%)、「運動しない」12人(5.2%)【図2.9】。食生活と同様に、女性の方があまり運動していないが、年代の影響の方が大きく、30～50代があまり運動していない【図表2.10】。

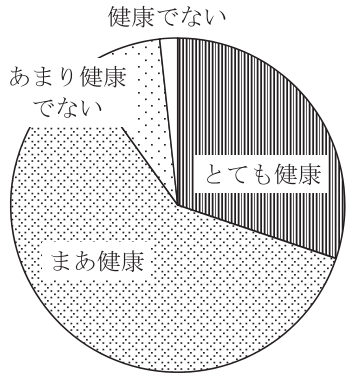
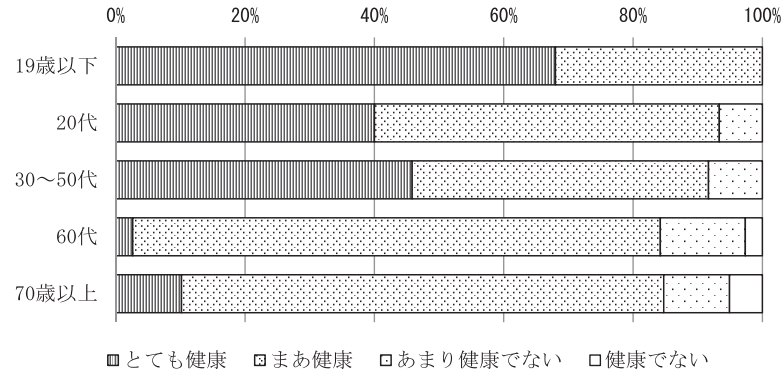


図2.5 健康度

図表2.6 年代別の健康度

	とても健康	まあ健康	あまり健康でない	健康でない	合計
19 歳以下	18	8	0	0	26
20 代	24	32	4	0	60
30~50 代	21	22	4	9	47
60 代	1	31	5	1	38
70 歳以上	6	44	6	3	59



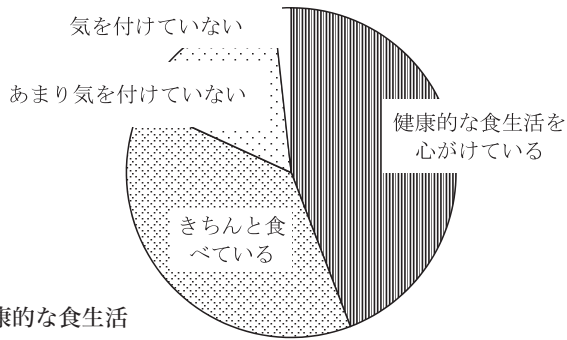
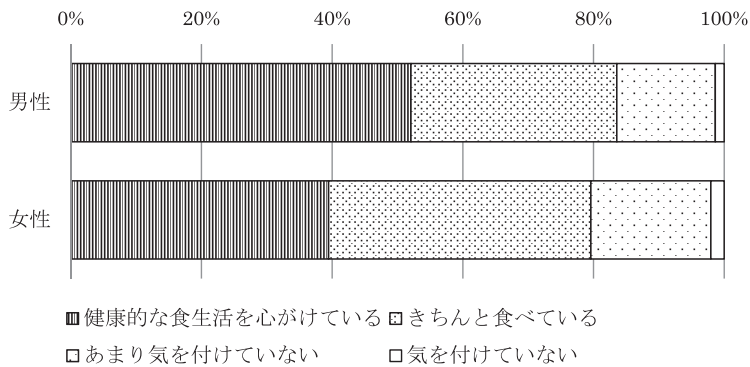


図2.7 健康的な食生活

図表2.8 性別による健康的な食生活

	健康的な食生活を心がけている	きちんと食べている	あまり気を付けていない	気を付けていない	合計
男性	38	23	11	1	73
女性	58	59	27	3	147



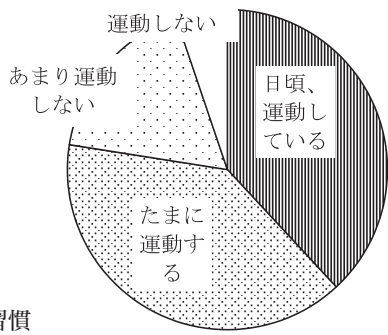
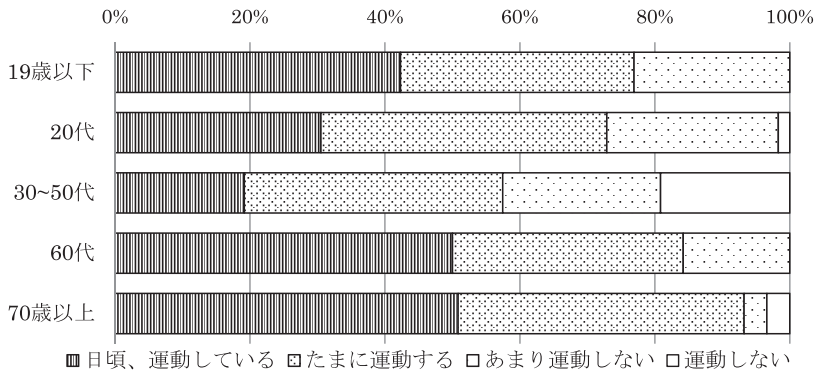


図2.9 運動習慣

図表2.10 年代別の運動習慣

	日頃、運動している	たまに運動する	あまり運動しない	運動しない	合計
19歳以下	11	9	6	0	26
20代	18	25	15	1	59
30~50代	9	18	11	9	47
60代	19	13	6	0	38
70歳以上	30	25	2	2	59



人間ドックは「受けたことがある」79人（35.4%）、「受けたことはないが関心がある」98人（43.9%）、「関心はない」46人（20.6%）【図2.11】。男性の方が人間ドックを受けたことがあるが、女性も関心を持っている【図表2.12】。年代は当然のことながら、19歳以下、20代で人間ドックを受けた人が少なく、関心がない人も4割を超える【図表2.13】。

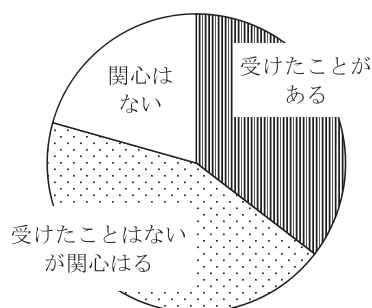
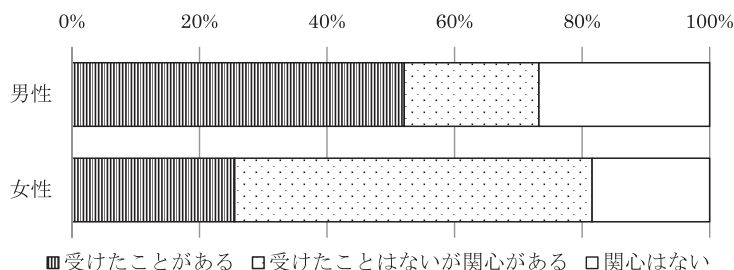


図2.11 人間ドックの経験

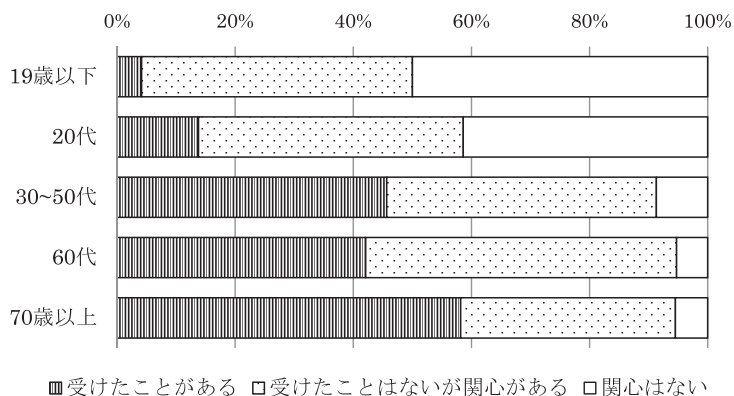
図表2.12 性別による人間ドックの経験

	受けたことがある	受けたことはないが関心がある	関心はない	合計
男性	37	15	19	71
女性	36	79	26	141



図表2.13 年代別の人間ドックの経験

	受けたことがある	受けたことはな いが関心がある	関心はない	合計
19歳以下	1	11	12	24
20代	8	26	24	58
30～50代	21	21	4	46
60代	16	20	2	38
70歳以上	32	20	3	55



(3) 観光旅行の回数や手配

過去一年間の観光旅行の回数は「1回」48人(21.1%)、「2～3回」114人(50.2%)、「4～9回」28人(12.3%)、「10回以上」7人(3.1%)、「一度も行っていない」30人(13.2%)【図2.14】。性別によって差はあまり見られない。年代別では60代と70歳以上で「一度も行っていない」が若干増える【図表2.15】。

日頃の観光旅行の宿泊や交通の手配は、「個人で手配」137人(62.3%)、「ツアー・団体旅行」59人(26.8%)、「フリープラン」24人(10.9%)【図2.16】。性別によって差はあまり見られない。年代別では若い人ほど「個人で手配」が多くなる【図表2.17】

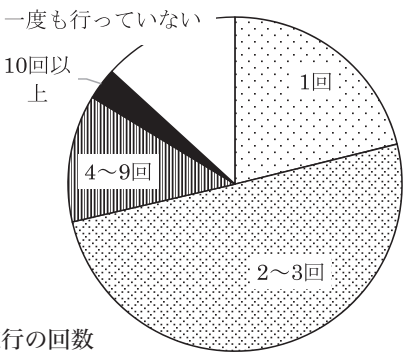
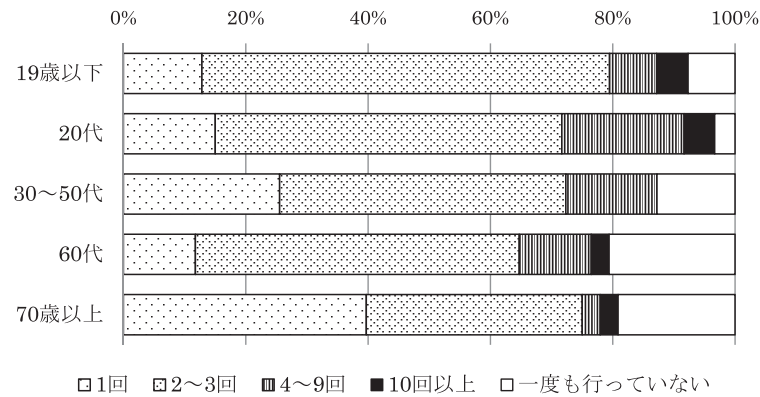


図2.14 過去一年間の観光旅行の回数

図表2.15 年代別の過去一年間の観光旅行の回数

	1回	2～3回	4～9回	10回以上	一度も行っていない	合計
19歳以下	5	26	3	2	3	26
20代	9	34	12	3	2	60
30～50代	12	22	7	0	6	47
60代	4	18	4	1	7	34
70歳以上	27	24	2	2	13	58



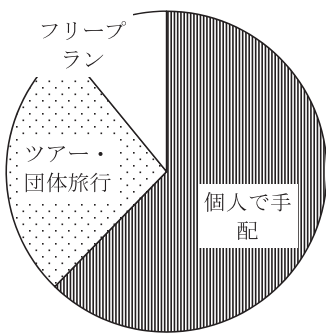
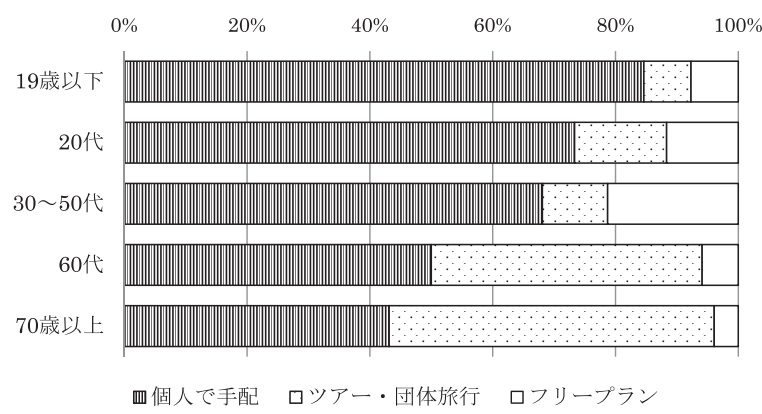


図2.16 日頃の観光旅行の宿泊や交通の手配

図表2.17 年代別、日頃の観光旅行の宿泊や交通の手配

	個人で手配	ツアー・団体旅行	フリープラン	合計
19 歳以下	22	2	2	26
20 代	44	9	7	60
30～50 代	32	5	10	47
60 代	17	15	2	34
70 歳以上	22	27	2	51



(4) ヘルスツーリズムへの関心

6種類の健康づくり及び健康に配慮した観光プランについて利用意向を尋ねた。「栄養管理がされた健康的な食事ができる観光旅行」は通常の観光プランに加えて5000円程度で、「参加したい」44人(24.3%)、「興味ある」79人(43.6%)、「興味なし」58人(32.0%)【図2.18】。女性の方が「参加したい」が若干多い【図表2.19】。年代別に見ると30～50代で「参加したい」が少ないが、これは30～50代で男性が多いためである。健康度では「まあ健康」の人で、参加したい、興味なしが分かれている【図表2.20】。健康的な食生活による違いは見られなかった。過去1年間の旅行回数による差はあまり見られなかった。

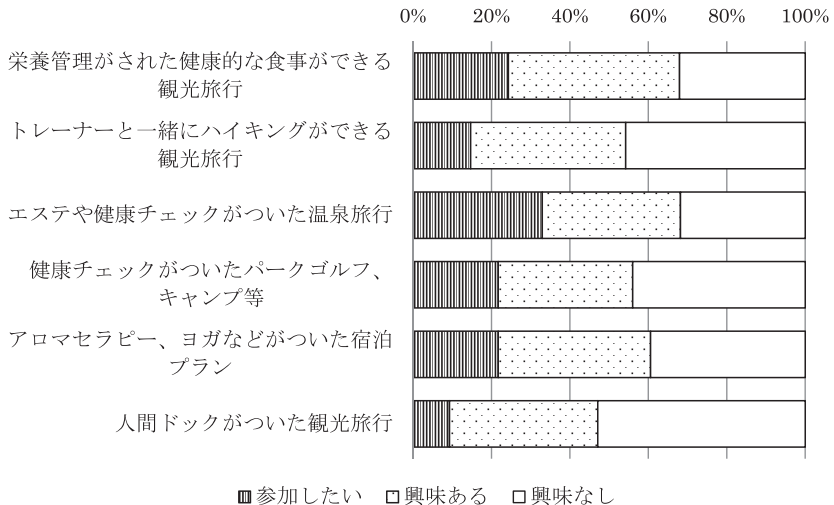
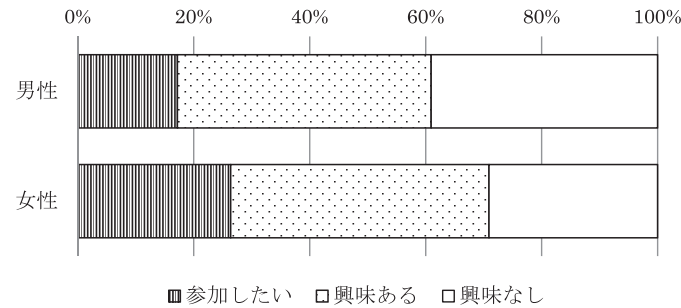


図2.18 健康づくり及び健康に配慮した観光プランの利用意向

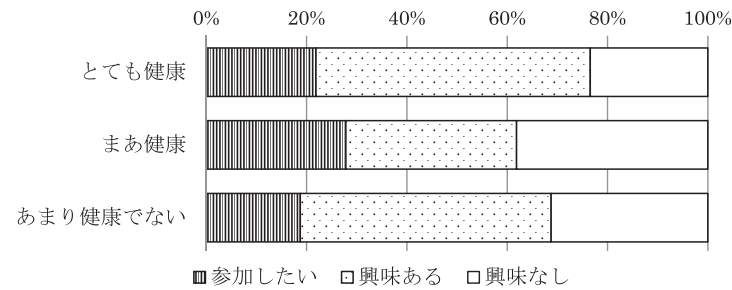
図表2.19 性別による、
栄養管理がされた健康的な食事ができる観光旅行の利用意向

	参加したい	興味ある	興味なし	合計
男性	11	28	25	64
女性	29	49	32	110



図表2.20 健康度別、
栄養管理がされた健康的な食事ができる観光旅行の利用意向

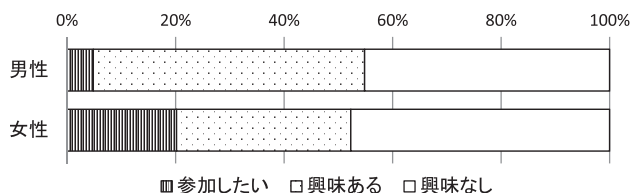
	参加したい	興味ある	興味なし	合計
とても健康	14	35	15	64
まあ健康	27	33	37	97
あまり健康でない	3	8	5	16



「トレーナーと一緒にハイキングができる観光旅行」は通常の観光プランに加えて5000円程度で、「参加したい」26人（14.7%）、「興味ある」70人（39.5%）、「興味なし」81人（45.8%）【図2.18】。女性の方が「参加したい」がやや多い【図表2.21】。年代別にはあまり差が見られない。健康度では、「とても健康」で興味あるが多い【図表2.22】。運動習慣による違いは見られなかった。過去1年間の旅行回数による差はあまり見られなかった。

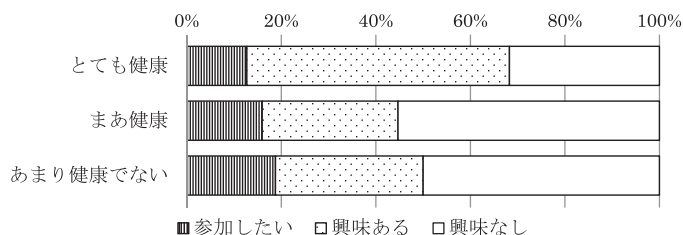
図表2.21 性別による、
トレーナーと一緒にハイキングができる観光旅行の利用意向

	参加したい	興味ある	興味なし	合計
男性	3	31	28	62
女性	22	35	52	109



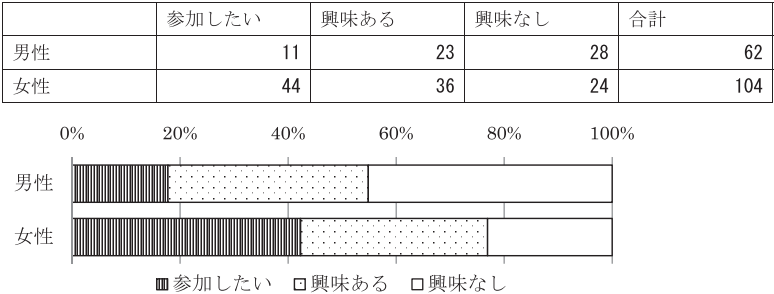
図表2.22 健康度別、
トレーナーと一緒にハイキングができる観光旅行の利用意向

	参加したい	興味ある	興味なし	合計
とても健康	8	35	20	63
まあ健康	15	27	52	94
あまり健康でない	3	5	8	16

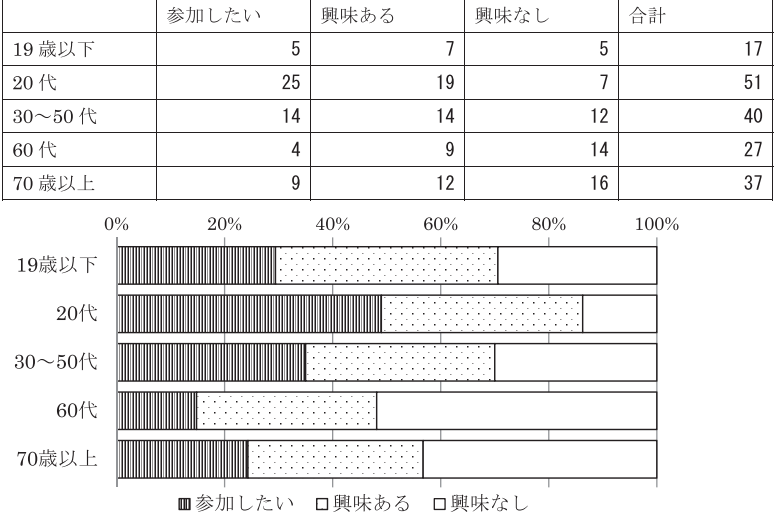


「エステや健康チェックがついた温泉旅行」は通常の観光プランに加えて5000円程度で、「参加したい」57人(32.9%)、「興味ある」61人(35.3%)、「興味なし」55人(31.8%)【図2.18】。女性の方が「参加したい」が多い【図表2.23】。年代は20代が多く、60代で少ない【図表2.24】。健康度による差はあまり見られない。過去1年間の旅行回数は多い方が「参加したい」が多いが、これは年代が若い方が旅行回数が多い影響を受けていると考えられる。

図表2.23 性別による、エステや健康チェックがついた温泉旅行の利用意向



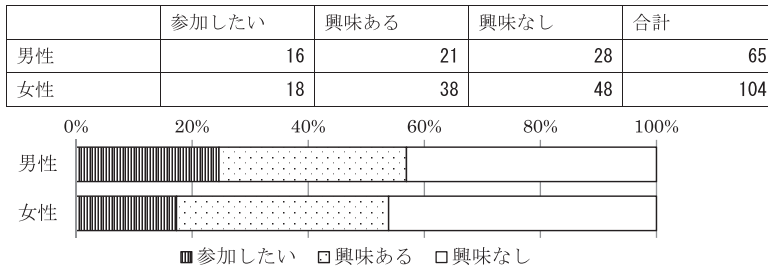
図表2.24 年代別、エステや健康チェックがついた温泉旅行の利用意向



「健康チェックがついたパークゴルフ、キャンプ等」は通常の観光プランに加えて5000円程度で、「参加したい」38人（21.7%）、「興味ある」60人（34.3%）、「興味なし」77人（44.0%）【図2.18】。男性の方が「参加したい」が若干多い【図表2.25】。年代は70歳以上でやや多い【図表2.26】。健康度は「とても健康」と「まあ健康」で比較的多く、「あまり健康でない」で少なくなる。過去1年間の旅行回数による差はあまり見られなかった。

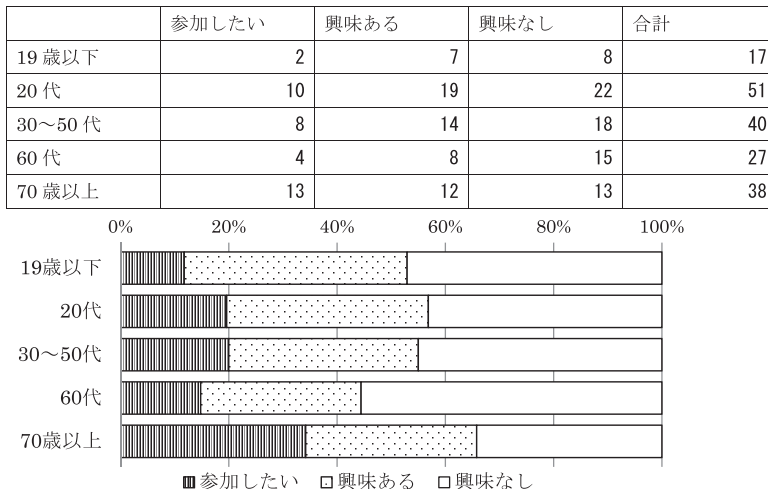
図表2.25 性別による、

健康チェックがついたパークゴルフ、キャンプ等の利用意向



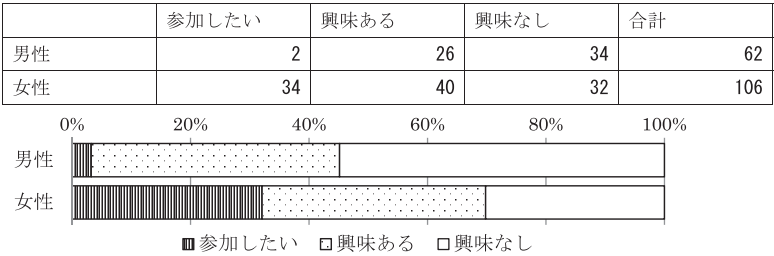
図表2.26 年代別、

健康チェックがついたパークゴルフ、キャンプ等の利用意向

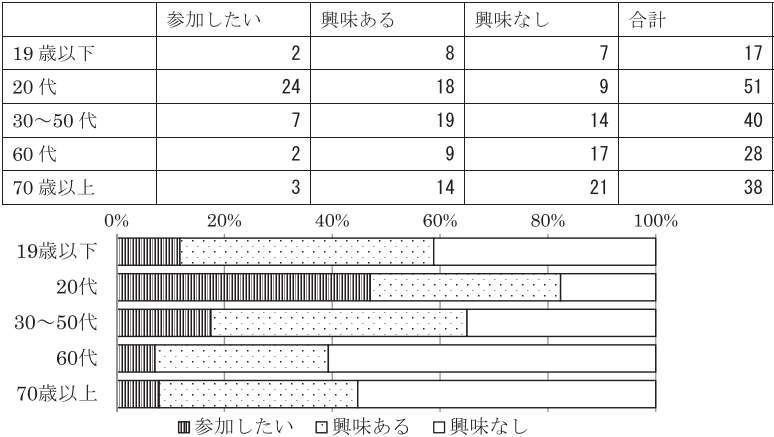


「アロマセラピー、ヨガなどがついた宿泊プラン」は通常の観光プランに加えて5000円程度で、「参加したい」38人(21.7%)、「興味ある」68人(38.9%)、「興味なし」69人(39.4%)【図2.18】。女性の方が「参加したい」が多い【図表2.27】。年代では20代で「参加したい」が多く、60代、70歳以上で「興味なし」が多くなる【図表2.28】。運動習慣は、逆に「あまり運動しない」、「運動しない」人で「参加したい」が多い。あまり運動習慣のない人が旅行をきっかけに運動の機会を求めていることがわかる。過去1年間の旅行回数は多い方が「参加したい」が多いが、これは年代が若い方が観光旅行の回数が多い影響を受けていると考えられる。

図表2.27 性別による、
アロマセラピー、ヨガなどがついた宿泊プランの利用意向

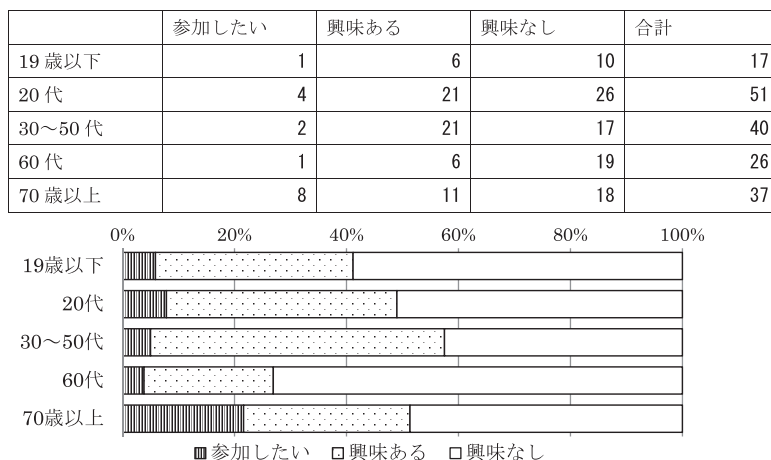


図表2.28 年代別、アロマセラピー、ヨガなどがついた宿泊プランの利用意向

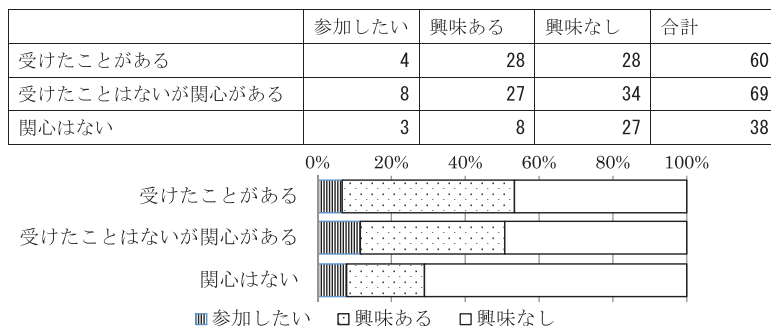


「人間ドックがついた観光旅行」は通常の観光プランに加えて50000円程度で、「参加したい」16人（9.3%）、「興味ある」65人（37.8%）、「興味なし」91人（52.9%）【図2.18】。性別による差は見られず、年代は70歳以上で「参加したい」が多い【図表2.29】。人間ドックを受けたことがある人も、受けたことはないが関心がある人も、半数が「参加したい」または「興味がある」としている【図表2.30】。人間ドックの経験にかかわらず、観光旅行とセットになった人間ドックに興味がよくされていることがわかる。

図表2.29 年代別、人間ドックがついた観光旅行の利用意向



図表2.30 人間ドックの体験別、人間ドックがついた観光旅行の利用意向



4種類の介護や配慮が必要になった時の観光プランについて利用意向を尋ねた。「福祉タクシー介助付観光（車いすで乗車、運転手が下車観光時介助・案内）」は3時間コース15000円程度で、「必要になれば利用したい」96人（51.1%）、「そこまでして観光旅行しようと思わない」56人（29.8%）、「わからない」36人（19.1%）【図2.31】。性別、年代、健康度による差はあまり見られない。過去1年間の旅行回数で見てもあまり変わらない。

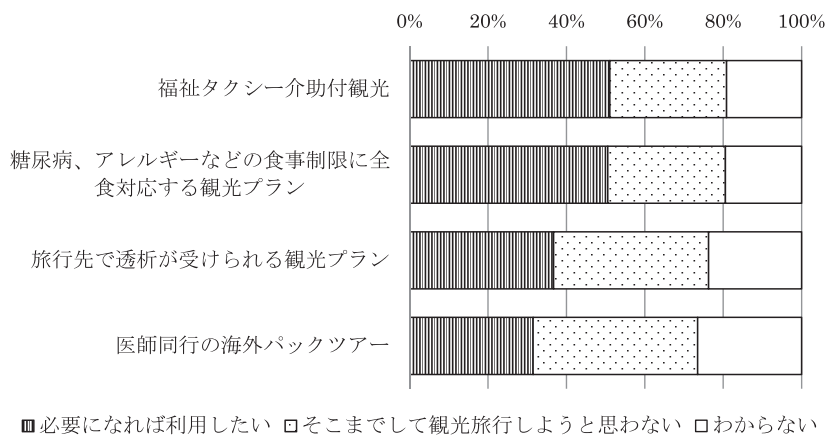
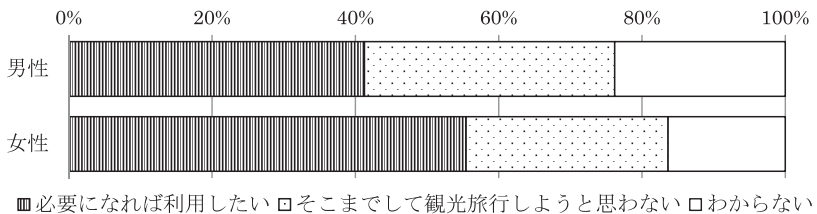


図2.31 介護や配慮が必要になった時の観光プランの利用意向

「糖尿病、アレルギーなどの食事制限に全食対応する観光プラン」は通常の観光プランに加えて一食あたり500円程度で、「必要になれば利用したい」91人（50.6%）、「そこまでして観光旅行しようと思わない」54人（30.0%）、「わからない」35人（19.4%）【図2.31】。女性の方が「必要になれば利用したい」が多い【図表2.32】。年代、健康度による差はあまり見られない。過去1年間の旅行回数で見てもあまり変わらない。

図表2.32 性別による、
糖尿病、アレルギーなどの食事制限に全食対応する観光プランの利用意向

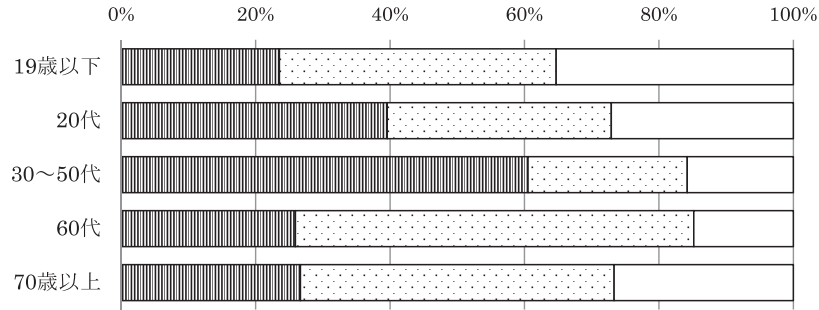
	必要になれば利用したい	そこまでして観光旅行しようと思わない	わからない	合計
男性	26	22	15	63
女性	61	31	18	110



「旅行先で透析が受けられる観光プラン」は通常の観光プランに加えて1000円程度で、「必要になれば利用したい」65人(36.7%)、「そこまでして観光旅行したいと思わない」70人(39.5%)、「わからない」42人(23.7%)【図2.31】。性別、健康度によってあまり差は見られない。年代は30～50代で「必要になれば利用したい」が多い【図表2.33】。性別によって差が見られないため、年代によるものである。過去1年間の旅行回数で見てもあまり変わらない。

図表2.33 年代別、旅行先で透析が受けられる観光プランの利用意向

	必要になれば利用したい	そこまでして観光旅行したいと思わない	わからない	合計
19歳以下	4	7	6	17
20代	19	16	13	48
30～50代	23	9	6	38
60代	7	16	4	27
70歳以上	12	21	12	45

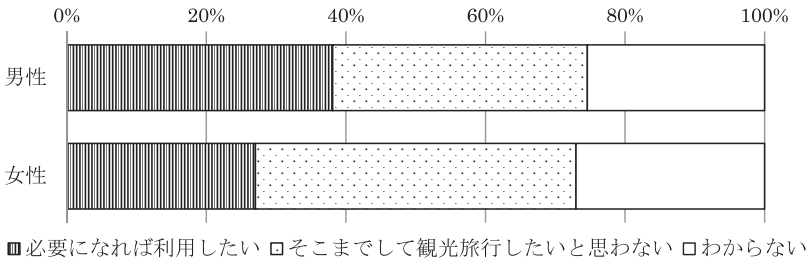


■ 必要になれば利用したい □ そこまでして観光旅行したいと思わない □ わからない

「医師同行の海外パックツアー」は通常の観光プランに加えて10000円程度で、「必要になれば利用したい」57人（31.5%）、「そこまでして観光旅行したいと思わない」76人（42.0%）、「わからない」48人（26.5%）【図2.31】。男性の方が「必要になれば利用したい」がやや多い【図表2.34】。年代では30～50代で多くなっているが、これは30～50代に男性が多いためと考えられる。健康度では、とても健康な人で「必要になれば利用したい」と「わからない」に分かれている【図表2.35】。過去1年間の旅行回数によって差は見られない。

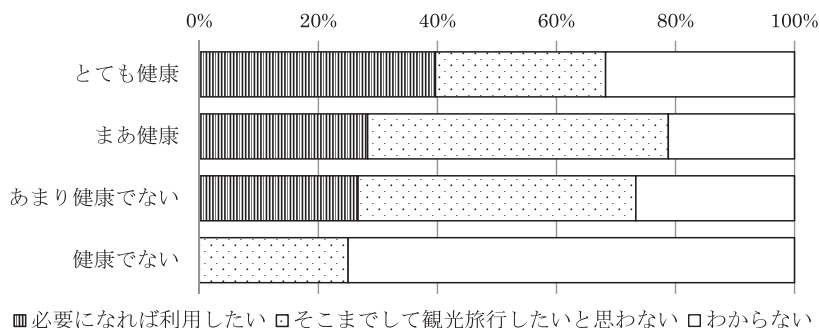
図表2.34 性別による、医師同行の海外パックツアーの利用意向

	必要になれば利用したい	そこまでして観光旅行したいと思わない	わからない	合計
男性	24	23	16	63
女性	30	51	30	111



図表2.35 健康度別、医師同行の海外パックスツアーの利用意向

	必要になれば 利用したい	そこまでして 観光旅行した いと思わない	わからない	合計
とても健康	25	18	20	63
まあ健康	28	50	21	99
あまり健康でない	4	7	4	15
健康でない	0	1	3	4



(5) 海外観光客のヘルスツーリズム受け入れに対する意識

海外から日本に人間ドックや療養を訪れて、一緒に観光をする旅行プランについて、海外から来た観光客が、地元の病院を利用することに対する意見を尋ねた。「観光客が来て、病院の保険外収入にもなるので積極的に進めるべきだと思う」90人(57.0%)、「地元住民の病院利用の妨げにならない程度に制限すべきだと思う」56人(35.4%)、「病院の保険外利用を促進することになるのでやめるべきだと思う」12人(7.6%)【図2.36】。性別、年代、健康度、自分の人間ドックがついた観光旅行への関心によって差は見られなかった。居住地の函館市内、以外でも差は見られない【図表2.37】。

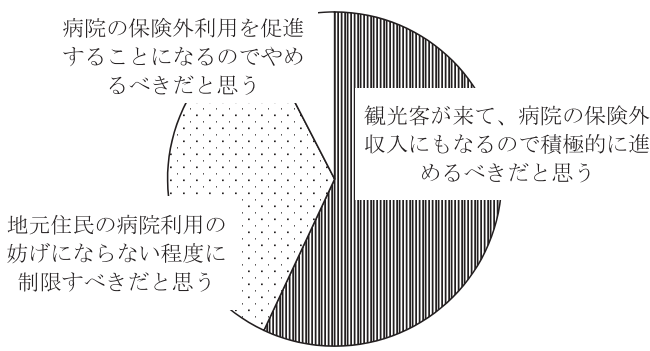
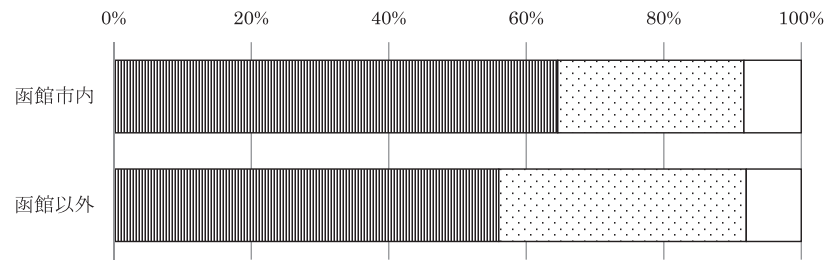


図2.36 海外観光客のヘルスツーリズム受け入れ意識

図表2.37 居住地別、海外観光客のヘルスツーリズム受け入れ意識

	観光客が来て、病院の保険外収入にもなるので積極的に進めるべきだと思う	地元住民の病院利用の妨げにならない程度に制限すべきだと思う	病院の保険外利用を促進することになるのでやめるべきだと思う	合計
函館市内	62	26	8	96
函館以外	28	18	4	50



- 観光客が来て、病院の保険外収入にもなるので積極的に進めるべきだと思う
- 地元住民の病院利用の妨げにならない程度に制限すべきだと思う
- 病院の保険外利用を促進することになるのでやめるべきだと思う

3. まとめ

健康づくり及び健康に配慮した観光プランの利用意向は、参加したいが1～3割であるが、興味あるが3～4割ある。すぐに利用するわけではないが、健康づくり及び健康に配慮した観光プランに関心がよせられていることがわかる。また、女性の方が「参加したい」が多いプラン、20代で「参加したい」が多いプランなど、観光プランに応じて様々な層の利用が期待される【表2.38】。

介護や配慮が必要な観光プランの利用意向は、必要になれば利用したいが3～5割である。こちらも男性の方が「必要になれば利用したい」が多いプラン、30～50代で多いプランなど、観光プランに応じて様々な層の利用が期待される【表2.38】。

逆に海外から日本に人間ドックや療養に訪れて、一緒に観光をする旅行プランについて、海外観光客が、地元の病院を利用することに対して半数以上が積極的に進めるべきだと思うと答えていた。ヘルスツーリズムの利用だけでなく、地元への受け入れについても意識の高まりが感じられる。

表2.38 ヘルスツーリズムの利用意向のまとめ

健康づくり及び健康に配慮した観光プラン	栄養管理がされた健康的な食事ができる観光旅行	参加したい 2 割、興味ある 4 割	女性の方が「参加したい」が若干多い
	トレーナーと一緒にハイキングができる観光旅行	参加したい 15%、興味ある 4 割	女性の方が「参加したい」がやや多い。とても健康な人で「興味がある」が多い
	エステや健康チェックがついた温泉旅行	参加したい 3 割、興味ある 35%	女性の方が「参加したい」が多い 20 代で「参加したい」が多く、60 代で少ない
	健康チェックがついたパークゴルフ、キャンプ等	参加したい 2 割、興味ある 3 割	男性の方が「参加したい」が若干多い。とても健康、まあ健康な人で「参加したい」が多い
	アロマセラピー、ヨガなどがついた宿泊プラン	参加したい 2 割、興味ある 4 割	女性の方が「参加したい」が多い 20 代で「参加したい」が多い
	人間ドックがついた観光旅行	参加したい 1 割、興味ある 4 割	70 歳以上で「参加したい」が多い
介護や配慮が必要になった時の観光プラン	福祉タクシー介助付観光	必要になれば利用したい 5 割	
	糖尿病、アレルギーなどの食事制限に全食対応する観光プラン	必要になれば利用したい 5 割	女性の方が「必要になれば利用したい」が多い
	旅行先で透析が受けられる観光プラン	必要になれば利用したい 4 割	30~50 代で「必要になれば利用したい」が多い。
	医師同行の海外パックツアー	必要になれば利用したい 3 割	男性の方が「必要になれば利用したい」がやや多い

Ⅲ. エンディングノートと新たな葬祭関連サービス

1. 調査方法

2014年8月、函館市の高齢者大学において受講者に集合アンケートを行った。アンケートは研修会前に配布し、終了後に出口で回収した。

調査項目は、回答者基本属性（性別、年代など）、エンディングノートの認知及び使用経験、万が一の時に備えた準備状況、葬儀や墓地への希望、葬祭業者が提供していれば便利だと思うサービスなどである。

2. 調査結果

回収数249。

（1）回答者基本属性

男性59人（28.0%）、女性152人（72.0%）。女性が7割である【図3.1】。

年代は60代84人（35.6%）、70代141人（59.7%）、80歳以上11人（4.7%）【図3.2】。70代が6割である。性別ごとに年代をみてもあまり変わらない。

健康度は「とても健康」17人（7.2%）、「まあ健康」182人（77.1%）、「あまり健康でない」29人（12.3%）、「健康でない」8人（3.4%）【図3.3】。「まあ健康」が8割である。性別によって差は見られない。年代別にみると、年代があがるほど「まあ健康」が若干減り、「あまり健康でない」が増える傾向がみられるが、大きな差は見られない。

（2）エンディングノートの認知及び使用経験

エンディングノートの認知及び使用経験は「書いている」24人（10.2%）、「今後、書こうと思っている」137人（58.1%）、「書くつもりはない」45人（19.1%）、「エンディングノートを知らない」30人（12.7%）【図3.4】。1割の人がエンディングノートを書いており、6割が「今後、書こうと思っている」。

女性の方が「書こうと思っている」人がやや多い【図表3.5】。年代ではあまり差は見られない。

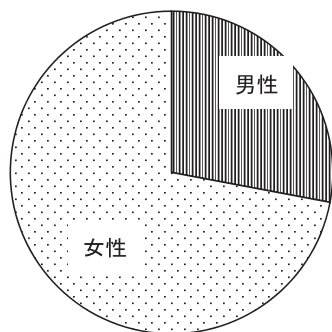


図3.1 性別

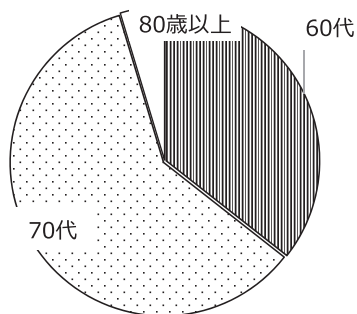


図3.2 年代

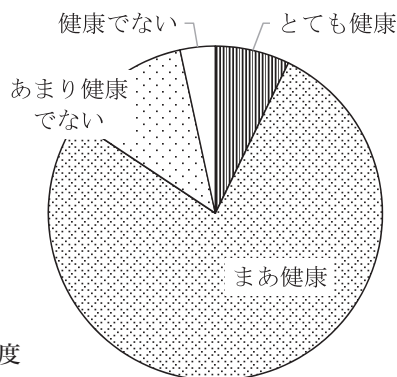


図3.3 健康度

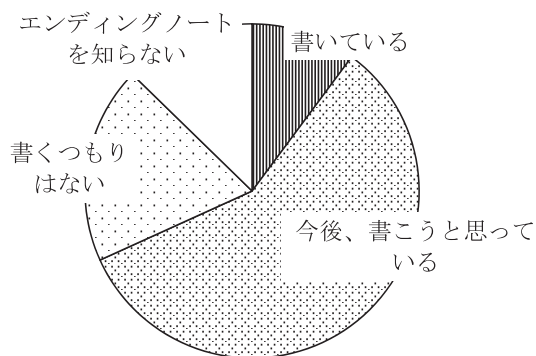
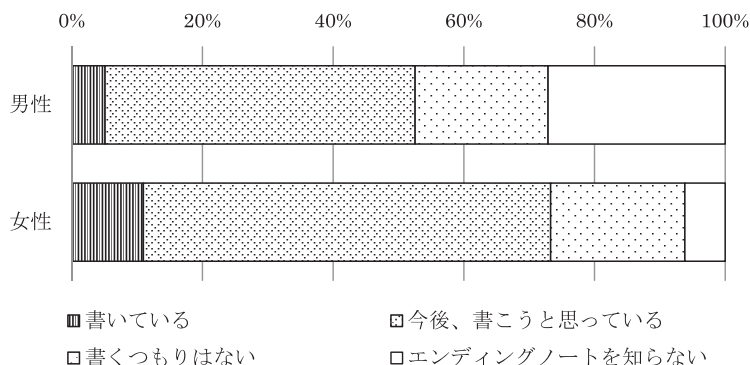


図3.4 エンディングノートの認知及び使用経験

図表3.5 性別によるエンディングノートの認知及び使用経験

	書いている	今後、書こう と思っている	書くつもり はない	エンディン グノート を知らない	合計
男性	3	28	12	16	59
女性	16	91	30	9	146

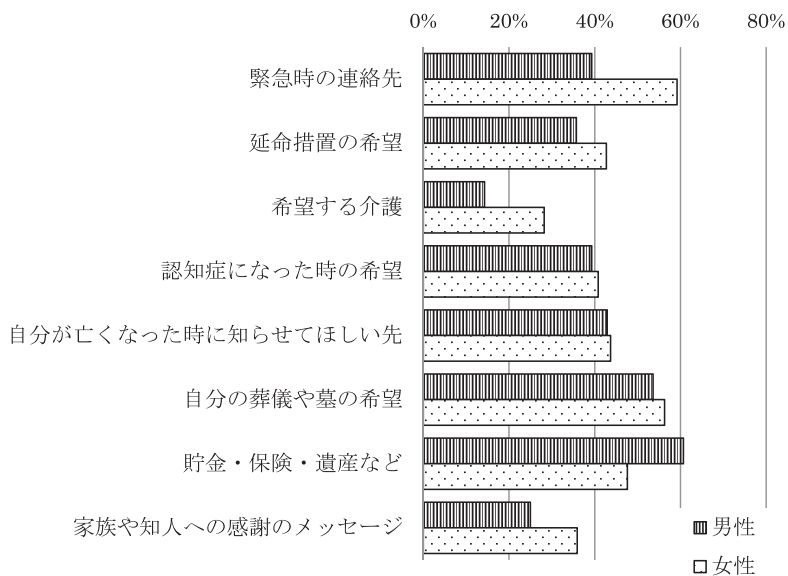


エンディングノートを「書いている」、「今後、書こうと思っている」人に書きたい項目を尋ねたところ、154人の複数回答で「緊急時の連絡先」79人(51.3%)、「延命措置の希望」64人(41.6%)、「希望する介護」39人(25.3%)、「認知症になった時の希望」60人(39.0%)、「自分が亡くなった時に知らせてほしい先」62人(40.3%)、「自分の葬儀や墓の希望」81人(52.6%)、「貯金・保険・遺産など」72人(46.8%)、「家族や知人への感謝のメッセージ」50人(32.5%)。「自分の葬儀や墓の希望」、「緊急時の連絡先」が半数を超えており、「貯金・保険・遺産など」、「延命措置の希望」などの順である。

「緊急時の連絡先」、「希望する介護」は女性が多く、「貯金・保険・遺産など」は男性が多い【図表3.6】。

図表3.6 性別によるエンディングノートに書きたい項目

	男性 (n=28)	女性 (n=103)
緊急時の連絡先	11	61
延命措置の希望	10	44
希望する介護	4	29
認知症になった時の希望	11	42
自分が亡くなった時に知らせてほしい先	12	45
自分の葬儀や墓の希望	15	58
貯金・保険・遺産など	17	49
家族や知人への感謝のメッセージ	7	37



エンディングノートを書くために相談した人は、136人の複数回答で「家族」43人（31.6%）、「知人・友人」7人（5.1%）、「親類」2人（1.5%）、「弁護士など法的関係者」1人（0.7%）、「医療福祉関係者」3人（2.2%）、「葬祭業者」1人（0.7%）、「宗教関係者」1人（0.7%）、「誰にも相談していない」83人（61.0%）【図3.7】。「家族」が3割、「誰にも相談していない」が6割であり、葬祭業者を含めて家族以外に相談している人はほとんどいない。性別による差は見られなかった。

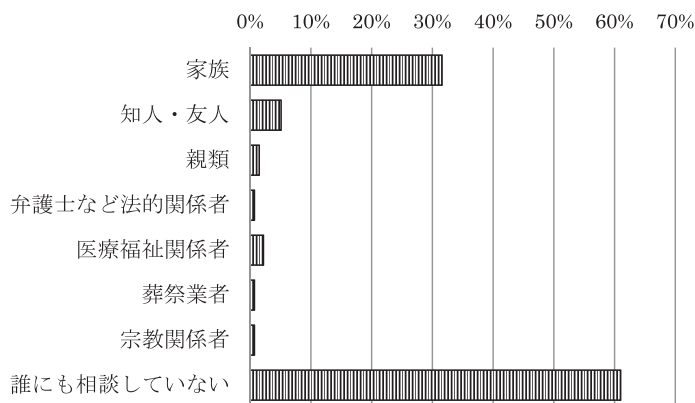


図3.7 エンディングノートを書くために相談した人

エンディングノートを書くために参考にしたのは、127人の複数回答で「研修会やセミナー」14人（11.0%）、「本や市販のエンディングノート」25人（19.7%）、「テレビや雑誌」57人（44.9%）、「何も参考にしていない」31人（24.4%）。

男性で「本や市販のエンディングノート」が多く、女性で「テレビや雑誌」が多くなっていた【図表3.8】。年代によって差は見られなかった。

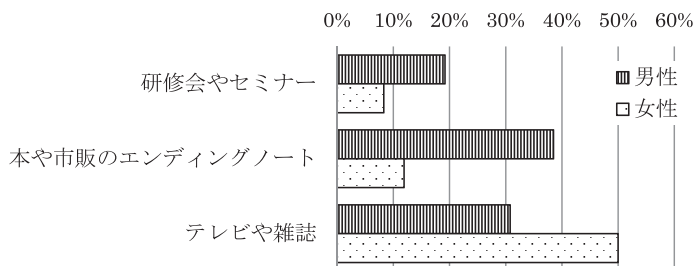
エンディングノートを書こうと思ったきっかけは、145人の複数回答で「高齢になった」106人（73.1%）、「健康不安」36人（24.8%）、「身近な人が亡

くなった」27人（18.6%）。7割が「高齡になった」ことをあげている。

男女とも「高齡になった」が多い【図表3.9】。年代によって差は見られなかった。

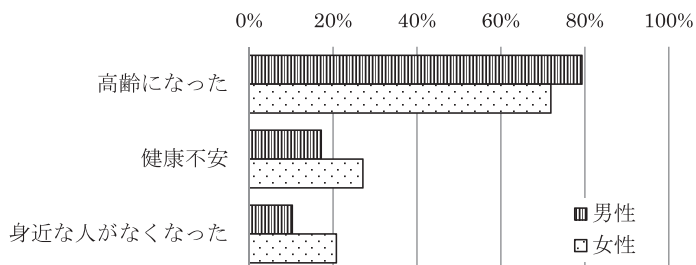
図表3.8 性別による、エンディングノートを書くために参考にしたもの

	男性 (n=26)	女性 (n=84)
研修会やセミナー	5	7
本や市販のエンディングノート	10	10
テレビや雑誌	8	42



図表3.9 性別による、エンディングノートを書こうと思ったきっかけ

	男性 (n=29)	女性 (n=96)
高齡になった	23	69
健康不安	5	26
身近な人が亡くなった	3	20

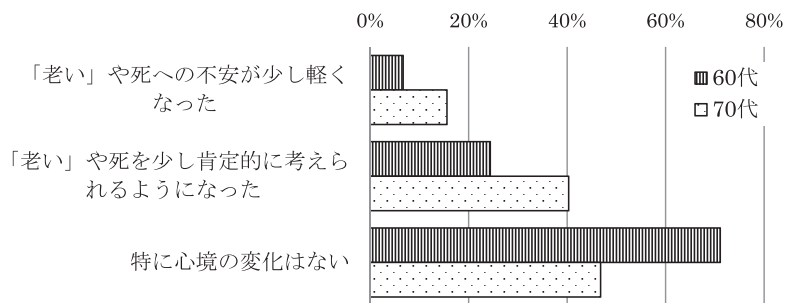


エンディングノートを書いた、または書こうと思ったことによる心境の変化は、132人の複数回答で「『老い』や死への不安が少し軽くなった」16人（12.1%）、「『老い』や死を少し肯定的に考えられるようになった」44人（33.3%）、「特に心境の変化はない」74人（56.1%）。

性別によって差は見られなかった。年代別では60代で「特に心境の変化はない」が多くなっていた【図表3.10】。

図表3.10 年代別、エンディングノートを書こうと思ったことによる心境の変化

	60代 (n=45)	70代 (n=77)
「老い」や死への不安が少し軽くなった	3	12
「老い」や死を少し肯定的に考えられるようになった	11	31
特に心境の変化はない	32	36



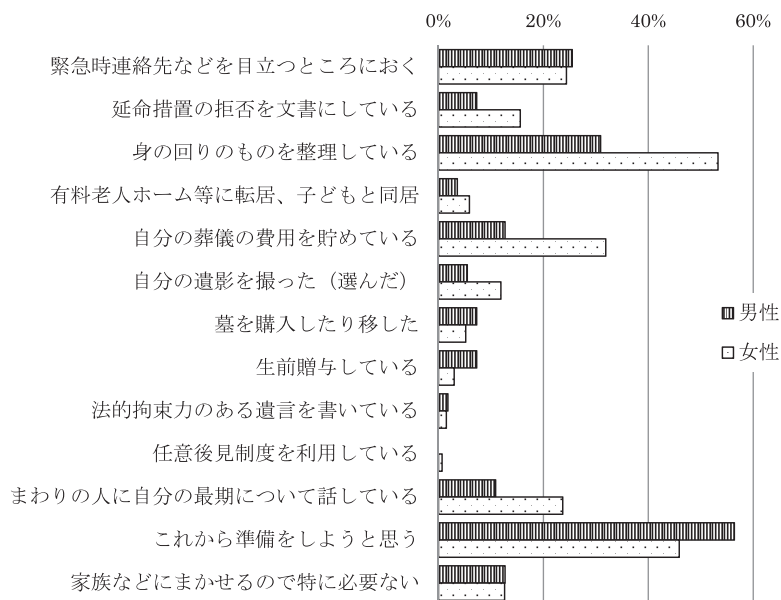
(3) 万が一の時の準備

万が一に備えた準備は、218人の複数回答で「緊急時連絡先などを目立つところにおいている」54人(24.8%)、「延命措置の拒否を文書にしている」29人(13.3%)、「身の回りのものを整理している」103人(47.2%)、「有料老人ホーム・ケア付き住宅に転居した、子どもと同居した」13人(6.0%)、「自分の葬儀の費用を貯めている」57人(26.1%)、「自分の遺影を撮った(選んだ)」20人(9.2%)、「墓を購入したり移した」14人(6.4%)、「生前贈与している」10人(4.6%)、「法的拘束力のある遺言を書いている」4人(1.8%)、「任意後見制度を利用している」1人(0.5%)、「まわりの人に自分の最期について話している」42人(19.3%)、「これから準備をしようと思う」103人(47.2%)、「家族などにまかせるので特に必要ない」26人(11.9%)。「これから準備をしようと思う」、「身の回りのものを整理している」が半数近く、「自分の葬儀の費用を貯めている」、「緊急時連絡先などを目立つところにおいている」などの順である。

性別によって「身の回りのものを整理している」、「自分の葬儀の費用を貯めている」は女性で多く、「これから準備しようと思う」は男性の方が多くなっていた【図表3.11】。

図表3.11 性別による、万が一に備えた準備

	男性 (n=55)	女性 (n=135)
緊急時連絡先などを目立つところにおいている	14	33
延命措置の拒否を文書にしている	4	21
身の回りのものを整理している	17	72
有料老人ホーム・ケア付き住宅に転居した、子どもと同居した	2	8
自分の葬儀の費用を貯めている	7	43
自分の遺影を撮った（選んだ）	3	16
墓を購入したり移した	4	7
生前贈与している	4	4
法的拘束力のある遺言を書いている	1	2
任意後見制度を利用している	0	1
まわりの人に自分の最期について話している	6	32
これから準備をしようと思う	31	62
家族などにまかせるので特に必要ない	7	17



（４）葬儀や墓地への希望

葬儀や墓地について関心のあるものは、224人の複数回答で「自分の葬儀の事前予約」10人(4.5%)、「生前葬(生きている間に葬儀をする)」3人(1.3%)、「散骨」32人(14.2%)、「樹木葬(遺灰を木の根元などに埋める)」16人(7.1%)、「家族葬(家族親族のみの小規模な葬儀)」153人(68.3%)、「直葬(火葬のみで葬儀をしない)」33人(14.7%)、「共同墓地」37人(16.5%)、「永代供養」75人(33.5%)、「どれにも関心はない」8人(3.6%)。「家族葬」が7割であり、「永代供養」が3割である。

「共同墓地」で若干女性が多かったが、そのほかの項目で性別による差は見られなかった。年代別に見ると「散骨」は60代の方が、「家族葬」は70代の方が多くなっていた【図表3.12】。

自分の葬儀や供養への希望として、希望と慣習について「慣習と違って自分や家族の希望を重視してほしい」115人(55.0%)、「どちらかといえば希望を重視」43人(20.6%)、「どちらかといえばこれまでの慣習を重視」21人(10.0%)、「これまでの慣習にそってほしい」30人(14.4%)。「慣習と違って自分や家族の希望を重視してほしい」が半数を超えている。

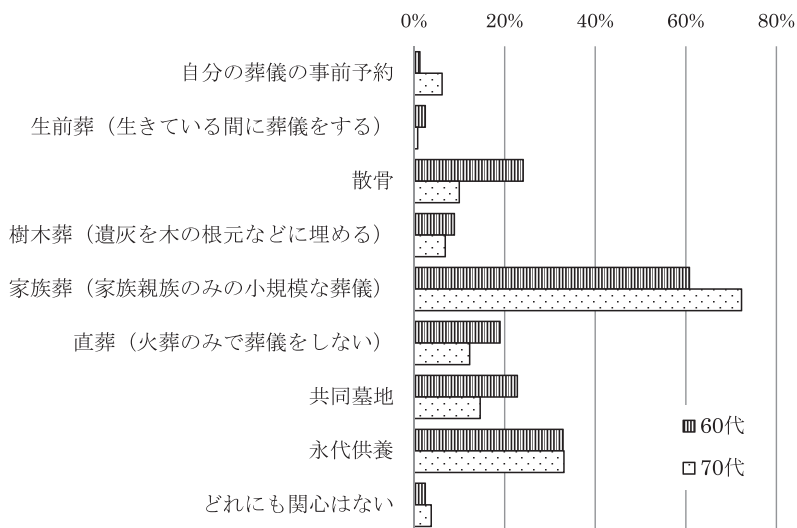
性別による差は見られなかった。年代では60代で「希望を重視して欲しい」がやや多かった【図表3.13】。

規模は「葬儀は必要ない」38人(18.7%)、「身内や友人だけの小規模な葬儀でよい」154人(75.9%)、「通常の葬儀くらいの規模」9人(4.4%)、「できるだけ多くの人を呼んでほしい」2人(1.0%)。「身内や友人だけの小規模な葬儀でよい」が3／4である。

性別による差は見られなかった。年代では、60代で葬儀は必要ないが多くなっていた【図表3.14】。

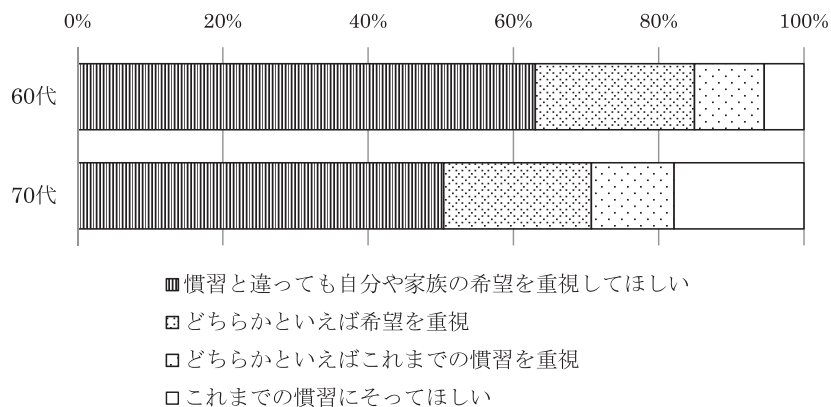
図表3.12 年代別、葬儀や墓地について関心のあるもの

	60代 (n=79)	70代 (n=130)
自分の葬儀の事前予約	1	8
生前葬（生きている間に葬儀をする）	2	1
散骨	19	13
樹木葬（遺灰を木の根元などに埋める）	7	9
家族葬（家族親族のみの小規模な葬儀）	48	94
直葬（火葬のみで葬儀をしない）	15	16
共同墓地	18	19
永代供養	26	43
どれにも関心はない	2	5



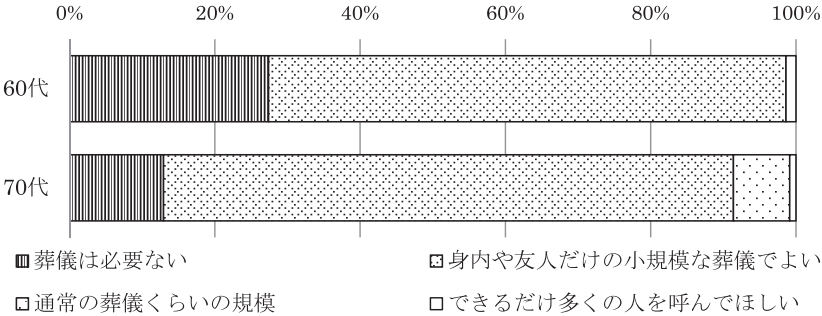
図表3.13 年代別、自分の葬儀や供養への希望（希望と慣習）

	60代	70代
慣習と違って自分や家族の希望を重視してほしい	46	62
どちらかといえば希望を重視	16	25
どちらかといえばこれまでの慣習を重視	7	14
これまでの慣習にそってほしい	4	22
合計	73	123



図表3.14 年代別、自分の葬儀や供養への希望（規模）

	60代	70代
葬儀は必要ない	20	15
身内や友人だけの小規模な葬儀でよい	52	91
通常の葬儀くらいの規模	0	9
できるだけ多くの人を呼んでほしい	1	1
合計	73	116



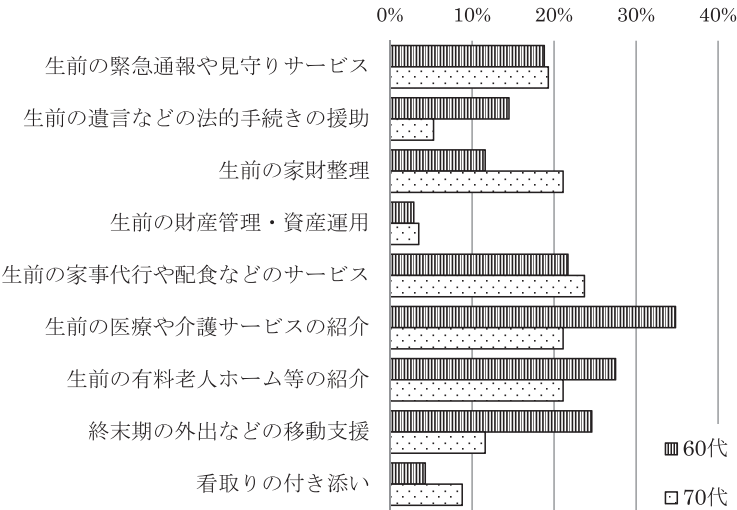
(5) 将来の葬祭関連サービスへの希望

葬祭業者や関連会社で提供されていれば便利だと思うサービス（有料）を尋ねたところ、194人の複数回答で「生前の緊急通報や見守りサービス」39人（20.1%）、「生前の遺言・任意後見などの法的手続きの援助」18人（9.3%）、「生前の家財整理」33人（17.0%）、「生前の財産管理・資産運用」6人（3.1%）、「生前の家事代行や配食などのサービス」43人（22.2%）、「生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介」51人（26.3%）、「生前の有料老人ホーム・ケア付き住宅の紹介」45人（23.2%）、「終末期の外出、病院からの外泊の移動支援」31人（16.1%）、「看取りの付き添い」14人（7.2%）、「死亡届など手続き代行」56人（29.0%）、「遺品の整理、回収」31人（16.0%）、「死後の相続、名義変更などの手続きの援助」32人（16.5%）、「遺族会など遺族への継続的な精神的サポート」8人（4.1%）、「供養、墓掃除の代行」16人（8.2%）、「どれも葬祭業者や関連会社には必要ない」24人（12.4%）、「わからない」23人（11.9%）。「死亡届など手続き代行」が3割と最も多く、「生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介」、「生前の有料老人ホーム・ケア付き住宅の紹介」が続く。

性別による差は見られなかった。年代別に見ると「生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介」、「終末期の外出、病院からの外泊の移動支援」は60代で多く、「生前の家財整理」は70代で多かった【図表3.15・16】。

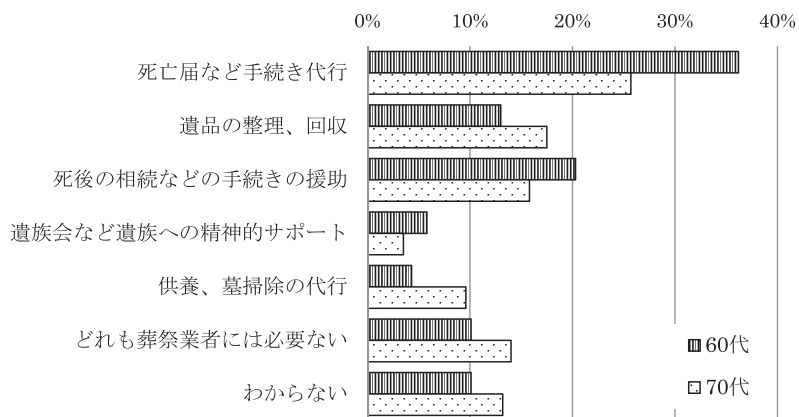
図表3.15 年代別、
葬祭業者や関連会社で提供されていれば便利だと思うサービス(1)

	60代 (n=69)	70代 (n=114)
生前の緊急通報や見守りサービス	13	22
生前の遺言・任意後見などの法的手続きの援助	10	6
生前の家財整理	8	24
生前の財産管理・資産運用	2	4
生前の家事代行や配食などのサービス	15	27
生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介	24	24
生前の有料老人ホーム・ケア付き住宅の紹介	19	24
終末期の外出、病院からの外泊の移動支援	17	13
看取りの付き添い	3	10



図表3.16 年代別、
葬祭業者や関連会社で提供されていれば便利だと思うサービス(2)

	60代 (n=69)	70代 (n=114)
死亡届など手続き代行	25	29
遺品の整理、回収	9	20
死後の相続、名義変更などの手続きの援助	14	18
遺族会など遺族への継続的な精神的サポート	4	4
供養、墓掃除の代行	3	11
どれも葬祭業者や関連会社には必要ない	7	16
わからない	7	15



3. まとめ

エンディングノートを書いている人が1割おり、6割が「今後、書こうと思っている」。エンディングノートへの関心は高く、実際に書こうと思っている人も多い。

エンディングノートに書きたい項目は「自分の葬儀や墓の希望」、「緊急時の連絡先」が半数を超えており、「貯金・保険・遺産など」、「延命措置の希望」などの順である。

エンディングノートを書くにあたって相談した人は、「家族」が3割であり、葬祭業者を含めて「家族」以外に相談している人はほとんどいない。エンディングノートを書くために参考にしたものは、「テレビや雑誌」が4割、「本や市販のエンディングノート」が2割、「研修会やセミナー」が1割である。エンディングノートは葬祭業者が研修会を行ったり、配布して葬儀の相談にのったりしているが、葬祭業者以外から異なるかたちでエンディングノートを知り、葬祭業者に相談せずに利用されていることがわかる。

エンディングノートを書こうと思ったきっかけとして、7割が「高齢になった」ことをあげている。エンディングノートを書いた、または書こうと思ったことによる心境の変化は「『老い』や死への不安が少し軽くなった」1割、「『老い』や死を少し肯定的に考えられるようになった」3割。「特に心境の変化はない」が半数を超えていたが、高齢期において「老い」や死を受け止めて今後を考えるきっかけになっている人もいる。

葬儀や墓地について関心のあるものは、近年の家族機能の縮小を受けて、「家族葬」が7割、「永代供養」が3割である。

葬祭業者や関連会社で提供されていれば便利だと思うサービスは「死亡届など手続き代行」が3割、「生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介」、「生前の有料老人ホーム・ケア付き住宅の紹介」が続く。年代別に見ると「生前の必要に医療や介護サービスの紹介」、「終末期の外出、病院からの外泊の移動支援」は60代で多く、「生前の家財整理」は70代が多い。生前・死別

後に家族機能を代行するサービスが求められており、葬祭業者や関連会社のサービスが広がっていく可能性が考えられる。

Ⅳ. 地方新聞

1. 調査方法

2014年8月、高齢者大学において受講者に集合アンケートを行った。アンケートは研修会前に配布し、終了後に出口で回収した。

加えて、7月～9月、函館市の観光地及びJR駅前で、函館市民及び観光客に街頭アンケートを行った。

調査対象は60歳以上の函館市民で、定期購読に限らず何らかのかたちで地元新聞（函館新聞）を購読している者とした。高齢社会において地元新聞購読者の意見や要望、購読状況を把握するためである。

調査項目は回答者基本属性（年代、性別、職業）、地元新聞を購読する頻度・機会、地元新聞に対する評価などである。

2. 調査結果

回収数106。

（1）回答者基本属性

男性32人（34.4%）、女性61人（65.6%）【図4.1】。2／3が女性である。

60代39人（38.2%）、70代59人（57.8%）、80歳以上4人（3.9%）【図4.2】。70代が6割を占める。

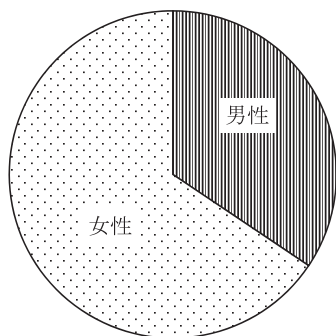


図4.1 性別

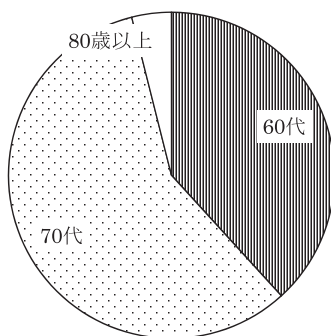


図4.2 年代

会社員・公務員・自営業8人(7.8%)、パート・アルバイト3人(2.9%)、専業主婦25人(24.5%)、無職66人(64.7%)。60歳以上の高齢者であるため、無職が6割、1／4が専業主婦になっている。

(2) 日頃のニュースの情報源

全国のニュースの主な情報源を複数回答で尋ねたところ、新聞100人(96.2%)、テレビ94人(90.4%)、ラジオ31人(29.8%)、雑誌18人(17.3%)、PCのインターネット22人(21.2%)、携帯のインターネット7人(6.7%)、知人や家族18人(17.3%)【図4.3】。新聞、テレビが9割以上を占め、ラジオ、PCのインターネットが2～3割であった。

地元のニュースの主な情報源を同様に複数回答で尋ねたところ、新聞91人(91.0%)、テレビ79人(79.0%)、ラジオ24人(24.0%)、タウン誌・フリーペーパー9人(9.0%)、PCのインターネット11人(11.0%)、携帯のインターネット6人(6.0%)、知人や家族19人(19.0%)、チラシ16人(16.0%)、市政だより34人(34.0%)【図4.4】。全国のニュースと同じく新聞が9割以上を占め、テレビが8割、市政だよりが3割であった。

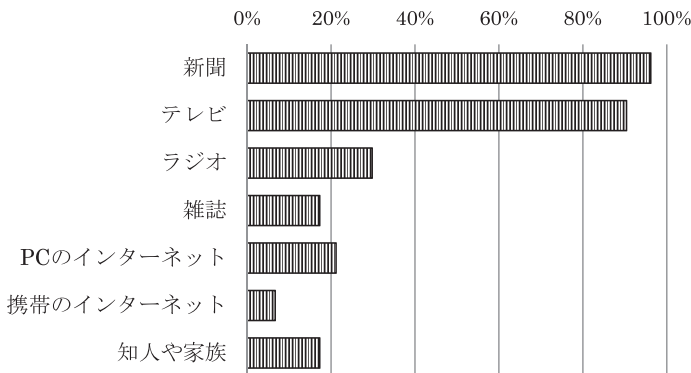


図4.3 全国のニュースの情報源

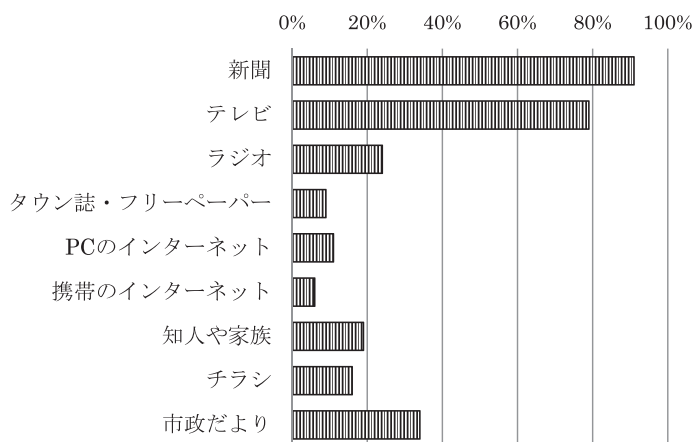


図4.4 地元のニュースの情報源

(3) 購読している新聞の種類

個人や自宅で定期購読している新聞を複数回答で尋ねたところ、地元新聞 26 人 (25.5%)、北海道の広域地方紙 71 人 (69.6%)、読売・朝日・毎日新聞等の全国紙 14 人 (13.7%)、その他 0 人 (0.0%)、定期購読していない 4 人 (3.9%) であった【図4.5】。北海道の広域地方紙が7割を占めた。

よく読む新聞を複数回答で尋ねたところ、地元新聞 34 人 (33.0%)、北海道の広域地方紙 79 人 (76.7%)、読売・朝日・毎日新聞等の全国紙 16 人 (15.5%)、その他 12 人 (11.7%)【図4.6】。その他には日本経済新聞、スポーツ紙があった。北海道の広域新聞が3／4であった。

新聞を読む頻度は、毎日 93 人 (95.9%)、週数回 3 人 (3.1%)、月数回 1 人 (1.0%)【図4.7】。

新聞の電子版は、無料で利用 11 人 (13.8%)、有料で利用 1 人 (1.3%)、利用していない 52 人 (65.0%)、電子版を知らない 16 人 (20.0%) であった【図4.8】。無料と有料を合わせて、利用している人は15%であった。

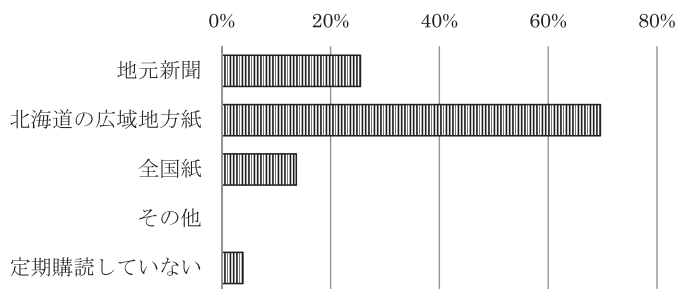


図4.5 定期購読している新聞

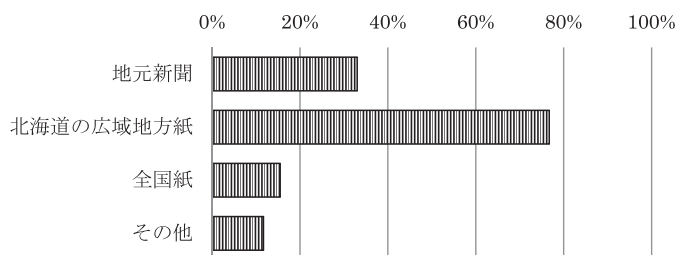


図4.6 よく読む新聞

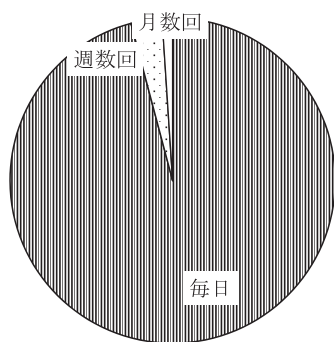


図4.7 新聞を読む頻度

（４）地元新聞の購読状況

地元新聞を読む頻度は「毎日読んでいる」30人（28.3%）、「時々読んでいる」48人（45.3%）、「知り合いが掲載されれば読んでいる」28人（26.4%）【図4.9】。3割が毎日、地元新聞を読んでいた。

地元新聞を読んでいる状況は、「自宅で定期購読している新聞を読む」23人（27.4%）、「職場で定期購読している新聞を読む」11人（13.1%）、「店で新聞を購入して読む」38人（45.2%）、「図書館・公民館・店舗などにある新聞を読む」4人（4.8%）、「その他」8人（9.5%）【図4.10】。その他には、友人宅、友人が掲載された紙面のコピーをくれるなどがあった。「店で新聞を購入して読む」が最も多く半数近く、「自宅で定期購読している新聞を読む」が3割であった。

北海道の広域地方紙を定期購読している人の半数が地元新聞を店で購入して読んでいた【図表4.11】。他紙を購読している一定の割合の人が地元新聞を店で購入して読んでいることが分かる。

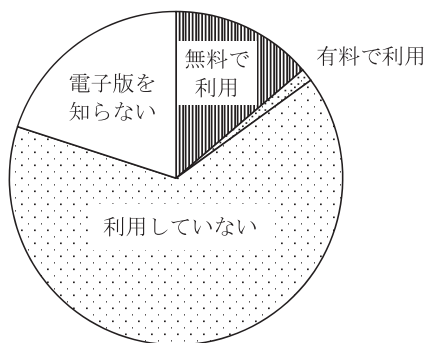


図4.8 新聞の電子版の利用

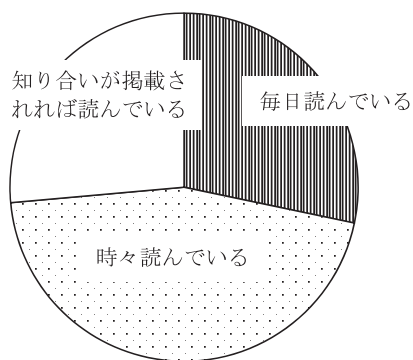


図4.9 地元新聞を読む頻度

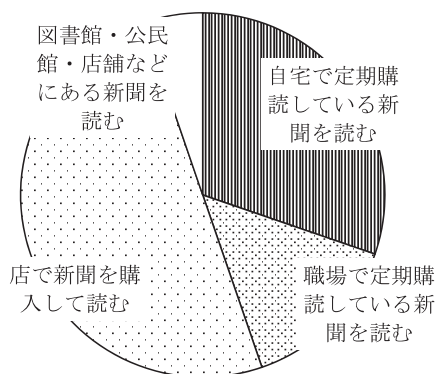
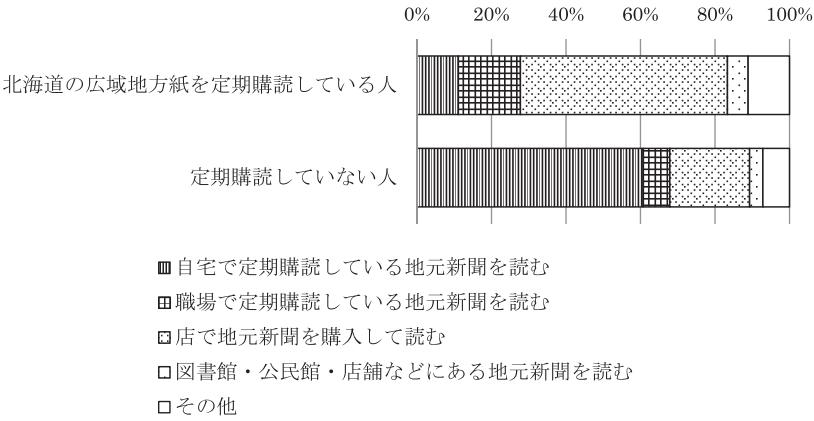


図4.10 地元新聞を読む状況

図表4.11 北海道の広域地方紙の定期購読の有無別、
地元新聞を読んでいる状況

	北海道の広域地 方紙を定期購読 している	定期購読してい ない
自宅で定期購読している地元新聞を読む	6	17
職場で定期購読をしている地元新聞を読む	9	2
店で地元新聞を購入して読む	33	8
図書館・公民館・店舗などにある地元新聞を読む	3	1
その他	6	2
合計	57	30



(5) 地元新聞でよく読む紙面

地元新聞でよく読む紙面を複数回答で尋ねたところ、一面トップ62人(66.0%)、社会面37人(39.4%)、第二社会面30人(31.9%)、全国ニュース42人(44.7%)、道南ネット等の地方面32人(34.0%)、地域イベント案内22人(23.4%)、全国スポーツ23人(24.5%)、地元スポーツ9人(9.6%)、健康情報等の生活面23人(24.5%)、コラム・連載15人(16.0%)、おくやみ欄46人(48.9%)、テレビ・ラジオ20人(21.3%)であった【図4.12】。一面トップが7割、おくやみ欄が5割であり、全国ニュース、社会面、道南ネット等の地方面の順であった。

地元新聞を定期購読している人、定期購読以外の方法で購読している人であまり差は見られなかった。

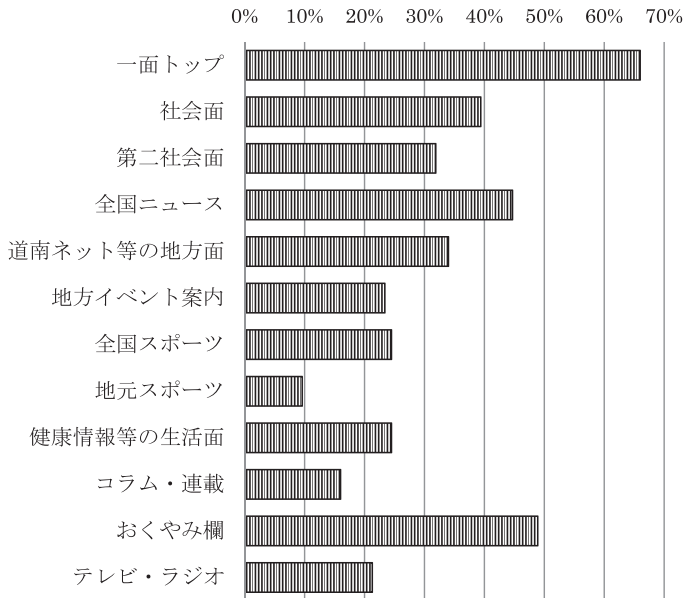


図4.12 地元新聞でよく読む紙面

(6) 地元新聞に対する評価【図 4.13】

地元新聞に対する評価は「わかりやすさ」について、満足18人(21.4%)、やや満足56人(66.7%)、やや不満9人(10.7%)、不満1人(1.2%)。満足とやや満足で9割であった。

「読みやすさ」について、満足17人(20.7%)、やや満足58人(70.7%)、やや不満4人(4.9%)、不満3人(3.7%)。満足とやや満足で9割であった。

「情報の正確さ」について、満足8人(10.0%)、やや満足57人(71.3%)、やや不満12人(15.0%)、不満3人(3.8%)。満足とやや満足で8割であった。

「必要な情報が得られるか」について、満足8人(10.0%)、やや満足41人(51.2%)、やや不満24人(30.0%)、不満7人(8.8%)。満足とやや満足で6割であった。

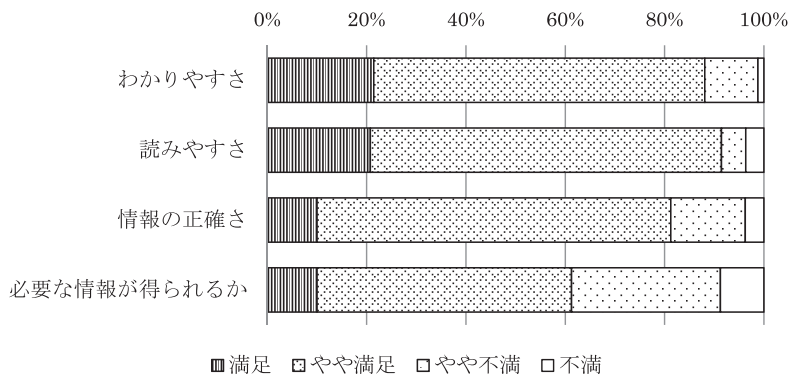


図4.13 地元新聞に対する評価

地元新聞に対する意見として、「地元新聞として身近なニュース提供に頑張って欲しい」、「地元のことにくわしい、早い」、「高齢になると身の回りの地域のことがいかに大切かを知りました。この新聞は十分ニーズに答えていると思います」などの地元ニュースの情報源としての評価がある一方で、「全国的情報が遅い。文化面の範囲が狭い。コラム等が少ない。生活情報、趣味等の取り上げが少ない」、「身近な情報が詳しい。全国的なのは物足りない」と全国ニュースやその他の内容について不足を指摘する意見があがっていた。

3. まとめ

9割以上の高齢者が、全国及び地元の情報源として新聞を利用していた。新聞が高齢者の必要な情報源となっていることがわかる。

地元新聞を読んでいる状況は、定期購読に限らず、店で新聞を購入して読む、職場で定期購読している新聞を読むなどの形態が見られた。他紙を定期購読している一定の割合の人が地元新聞を店で購入して読んでおり、定期購読以外の形態が比較的多くなっている。

地元新聞でよく読む紙面は一面トップに次いで、おくやみ欄であった。退職後の高齢者が求める情報として、友人・知人の消息があり、地元新聞がこのような地元の情報源となっていることがわかる。

新聞の電子版を利用している人は15%であったが、今後、ネット世代の高齢化に伴って普及していく可能性が考えられる。その中で、地元新聞はおくやみ欄を含め、高齢者の娯楽・趣味の情報など、一層、地元に着目した詳細な情報を伝えていくものになっていくことが推測される。

Ⅳ. まとめ

ヘルスツーリズムは、栄養管理がされた健康的な食事、エステや健康チェックがついた温泉旅行、福祉タクシー介助付観光など、プランに応じて様々な年齢層の参加希望があり、高齢者に限らず関心がよせられている。疾病構造の変化に伴う健康志向の高まり及び、高齢化の進展による介護や医療的な配慮が必要な人の増加の中で、健康づくり及び健康への配慮、介護や医学的配慮はさまざまな観光プランに組み込まれていくものになっていくと考えられる。加えて、海外から日本に人間ドックや療養に訪れて、一緒に観光をするヘルスツーリズムの地元への受け入れについても、肯定的な受けとめがされており、日本各地の先進医療の利用を含めて近隣アジア諸国の高所得者層を含む流れになっていくことが期待される。

エンディングノート及び葬祭サービスについては、葬祭業者が葬祭サービスの予約や相談のために提供していたエンディングノートが、高齢者の関心を集め、すでに葬祭業者以外から知り、葬祭業者と関係なく利用されるものになっている。他方で、葬祭関連サービスとして「死亡届などの手続き代行」、「生前の必要に応じた医療や介護サービスの紹介」など、生前・死別後に家族機能を代行するサービスが求められている。家族機能の縮小を受けて、葬祭業者のサービスがエンディングノートを超えて、さらに広がっていく可能性が考えられる。

退職後の高齢者の多くが地元のニュースを知る情報源として新聞を利用している。地元新聞は一面トップのニュースに加えて、おくやみ欄を通じて友人・知人の消息を知る情報源になっている。今後、新聞電子版を含めて、地元新聞は高齢者の暮らしに関連する地元の情報を一層伝えていくものになると考えられる。

超高齢社会において、顧客層の大きな変化により従来のサービスが質的に変容しはじめている例として、ヘルスツーリズム、エンディングノート及び葬祭サービス、地元新聞を取り上げた。これらの変化は、さまざまな分野で

生じており、さらに普遍的になっていくと考えられる。今後も調査を継続していきたい。